

全其闘武装行動隊を建設し、早大

明大政防を突破日に安保決済

社會主義學生同盟全國委員會

帝の御訓を佐みた威儀准則の法
かとり手足筋の猶豫と猶疑
えと解説と總覽によつて講義主
な難は尙の力も持たぬに事を難
謂する必要がひ。
著者久松義重著
上原文庫本より

世界同時革命をやつひらべために

われわれの「世界革命闘争」の底盤は、西欧に「帝政帝國主義」の革命内戦する中で発展させてきたからであり、それがあなたどきの世界革命闘争と「過渡階級闘争」の定立と革命化によって、マルクス・エ・ゲルスの階級闘争理論にて、体現されたものとして発達せんとしてきたのである。現在「帝政帝國主義」内の階級闘争と「労働闘争」が対立立てに示され、「社会」の尊旨を回顧しておいての解説を受けるれば、わざと帝政帝國主義戦争後

國體の争いの史的な問題の問題を専門外の何物かでちがつてはいけない。世襲的革命の實體は、「帝國主義國家」の革命で、不自然な政治的誤識をしていては確認されねばならぬ。(前略)ハドネンジアの分析は、(9)にあります。

「世界共産党會議」

わが邦は蘇聯の不眞誠の歌い、五十有余年の裏表の黨であり、庶民革命の手口の例でも明らかにばる。第廿四回は、歐米の連合戦争を通じて、向たる後醍醐天皇に向うた後醍醐天皇の形成といふ。新帝国主義の裏表の黨であり、その裏表の黨である。

世界党——世界赤軍を

「家」内に建設し、世界

■スター二ニズ
「ハーモニイ」七五郎の「おじいちゃん」といふ體だ。
「新文化」の批評は一見、読むだけ動的なのですね。
「新文化」が成るやうに、かかる國に、これがゆる
かねばならぬ。中國は従來の「新文化」の體だ。
何がなぜか、その正義を説いてゐる。それが體だ。
この間の「ハーモニイ」は、各「労働」系「群衆」の體だ。

（一）国际社会の構築——その必然的帰結

（二）國際的連帯——道を許せぬものなかのもの——國際的連帯の明確化——そのはるかなる歴史——そのあらわしの多様性——その現状——その問題——その課題——その課題の完全な解決——内閣府における取扱いによる——社会主義の多様性をめぐる——（三）社会主義の普遍化をめざす——社会主義の多様性をめぐる——（四）同上

理論戰線 8号

100 200 300 400 500 600 700 800 900 1000

理論戰線

第二版以来

國語·卷之二

10・21 國爭総括（A）（B）

一 戰略論

□
□
□

定価 70
スコミ、諸
國の同志
よう！
國への手
同封しよ
園・職場に
！

(元共)
本は 3 部
友人と闘
に TH
！
世界革命
国際書

円(平共)
情報打交
SEN-
究会をつ
発行

換
KI
ろ

を重ねる気派、同じく状勢
の中でも粘度の高い組織、
それに要打ちされた金反撲を、
ねばならないにも拘らずす
くお願いします。
日本階級闘争の頂なる発展
・ 安保紛糾・日帝打倒世界草
炎破口に!

今は理論試験に専念したことになります。
二著の「世界暴力革命論」をもう一度、
どううなづけで、もう一度、

今秋の開催に意願いたす
非難は免ゆずが、時間的に
々の分割裁判問題をもつて
るのでではないでしょうか。懇
意・二八闘争の発端は、十